

# 平成28年度事業報告書

社会福祉法人わかば福祉会

わかば園作業所

わかばグループホーム

わかば園第二作業所

## 基本方針について

1. 障害者の働く施設として、一人ひとりがその能力を十分発揮できる環境を整備する。
2. 介護や日常生活支援を要する利用者に対しては、野外活動・音楽・レクレーション等の活動を通して人として感情豊かな生活が送れるよう支援する。
3. 通所の福祉施設として、在宅生活を送る上で利用者が抱える福祉課題の解決に向けての取り組みも積極的に行う。
4. 地域の伝統文化継承に貢献する活動も今まで以上に積極的に取り組む。
5. 一般就労可能な方の就職支援を行う。

## 評議員会・理事会

会 議	日 時	内 容
第4回評議員会 第5回理事会	平成28年5月27日	平成27年度事業報告 平成27年度決算報告 監査報告
第7回評議員会 第6回理事会	平成28年11月4日	役員改選
第1回理事会	平成28年11月10日	理事長の選出 理事長の代行者選出
第1回評議員会 第2回理事会	平成29年1月13日	評議員選任・解任委員候補者の選任 新評議員候補者の選任
第2回評議員会 第3回理事会	平成29年3月24日	28年度補正予算 29年度事業計画・予算 就業規則・運営規程の変更

## 施設の概況

### 1) わかば園作業所について（平成29年3月31日現在）

#### 1 利用人数38名（定員38名）

〈生活介護〉	17名
障害程度区分6	3名
障害程度区分5	5名
障害程度区分4	3名
障害程度区分3	4名
障害程度区分2	2名

〈就労継続支援B型〉	21名
障害程度区分3	1名
障害程度区分2	8名
障害程度区分1	6名
無	6名

## 2 平均利用率

（生活介護）	13.8人（定員16名）
（就労継続支援B型）	16.6人（定員22名）

## 3 平均年齢

（生活介護）	36歳
（就労支援）	40歳

## 4 職員（平成29年3月31日現在）19名

### 〈生活介護〉

生活支援員	7名（常勤換算6.4人）
看護職	1名
サービス管理責任者	1名（兼務）
管理者	1名（兼務）

### 〈就労継続支援B型〉

作業指導員	3名（常勤換算2.9人）
生活支援員	1名
目標工賃達成指導員	1名
サービス管理責任者	1名（兼務）
管理者	1名（兼務）

### 〈共通職員〉

調理員	2名（パート2名）
事務員	2名
送迎員	1名

（有資格者 介護福祉士5名、社会福祉士1名 保育士1名）

## 5 開所日 268日

## 6 平均工賃（1ヶ月当たり）

平成22年	17,179円
平成23年	18,734円
平成24年	22,927円

平成25年	23,244円
平成26年	26,853円
平成27年	28,050円
平成28年	29,299円

7 年間売上額

平成22年	16,932,085円
平成23年	17,973,721円
平成24年	20,846,316円
平成25年	23,371,467円
平成26年	23,928,588円
平成27年	17,830,706円
平成28年	17,830,563円

8 防災訓練（避難・通報・消火等） 年2回実施（7月、3月）

9 虐待防止研修 平成29年3月15日実施

職員からの28年度の感想

生活介護 のびのび班

園内外で活動し、健康で充実して通所していただけるよう努めました。

また、レクリエーション活動では串本海中公園やクリスマス会、瀬流荘での食事会を計画し、利用者さんが楽しめる活動に取り組みました。

年間通してバイタルチェックや体調把握など看護職と共に健康管理に努めましたが、冬場にはインフルエンザや胃腸炎の利用者さんが出てしまいました。

ウォーターピックを一時中止する等の処置を取り、感染予防に努めました。

また、強度行動障害支援者養成研修に参加し、利用者さんへの支援の方法や知識を学びました。

生活介護 農耕班

神内の畑に植えた香花は、年々大きくなりますが木全体に元気がなく 病気に罹っているような状態です。山田指導員と相談し、消毒等の処置が必要な状態です。

初めてチャレンジした里芋は作業工程が色々あり、利用者さんみんなに関わる事が出来て良かったと思いました。29年度は昨年より増やしていく予定です。もうひとつの初めての野菜は生姜でした。収穫時、力任せに引き抜き、ポキッと折れてしまう事もありましたが 作業出来る人に従事するような工程にしたら、上手くいきました。「よってって」と「きのくにスーパー」に出荷しま

したが 思った程売れ行きが良くなく店頭から回収して来ることが何度かありました。

定番の野菜であるインゲン、ピーマン、そら豆、玉ねぎ、にんにく、じゃがいも、大根、かぶ、人参、ほうれん草、などは利用者さんも作業工程や手順を覚えているのでみんな進んで作業できています。

大根、人参が何者かに盗まれるのがとても悔しく畑の隣の電器工事店の方々に無償でライトを設置していただいていた夜中から明け方までセッティングして貰ってもいきましたが 効果はあまりなく・・・特に大根の盗難被害は毎年必ずあります。ライトの他にも対策を考えたいと思います。

利用者についてですが、昨年11月から二人の新しい利用者さんが増え、7名の利用者さんになりました。送迎車が満員状態で賑やかに畑に向かい作業をしています。畑の作業にも年々慣れてきて自信を持って作業に取り組んでいます。

それぞれ得手不得手はありますが みんなで助け合っています。

畝作りが出来る利用者さんが現在一名しかいないので 今ひとり練習中です。耕運機、草刈り機も一名しか操作出来ないの あと一人か二人 出来る人を育てたいと思います。(岸野結子)

#### 就労継続支援B型 ひじき班の目標

- 1) 全国生産活動にも参加し、全国の施設やお店等と関わりを持ち販売に繋げる。
- 2) 各施設が行う物品販売にひじきを入れてもらえる様に繋げる。
- 3) 各商談会にも積極的に参加して販路拡大に努めます。
- 4) ひじき加工では、利用者さんの出来る事を増やし作業効率向上を目指します。
- 5) 作業工程を見直し、作業効率の上向を目指します。

#### 考察

- 1) 昨年度の全国生産活動の開催地は遠方の福岡県のため、参加は断念しましたが、全国の生産活動をしている施設と連携して、障がい者施設の実力を多くの人に認知してもらう試みは継続したいと考えています。
- 2) 物品販売でひじきを商品として取り扱ってもらうために、「和歌山セルフ協」の会議などで紹介させて頂き、現在県内の3つの施設がひじきを商品として採用してくれることになりました。今後も物品販売の中の一つの商品としてもらえるよう宣伝活動をしていきたいと思っています。
- 3) プレミア和歌山商談会にも参加させて頂き、関東方面の商社と問屋さんとの取引が始まりました。まだ始まったばかりですが、今後継続的に納品出

来るように働きかけていきたいと思います。

- 4) 納品数の間違い、内容量が表示した量より少ないということがありました。納品数の確認については、注文を受けた人、配達する人の二人が確認作業を行うようにしました。また、内容量の確認については、袋にひじきを入れる際、シーラーで袋を閉じた際、出荷時と3回計量するようになりました。

また、生産性の向上については、一人ひとりの利用者が得意とする作業を中心に取り組み、正確性やスピードが高まるように配慮しました。できることを増やしつつ、得意なことを強化することで向上を図りました。

- 5) 利用者さんには個々に「毎日の目標」を持ってもらい、出来た数を記入してもらうなど成果を自分で確かめるようにして効率を意識して作業に取り組めるように努めました。(久保明美)

#### 就労継続支援B型 掃除班

県庁舎の清掃は、ほぼ固定のメンバーで作業に取り組むことが出来ました。2年目と言うこともあり個人の役割も明確となりました。また、その役割を数多く行うことにより、一人ひとりの仕事に安定感ができ、そのことが自信に繋がったと思います。

杉の郷の掃除は、廊下・食堂・プレイルーム（2箇所）等の掃除に2人とトイレ（4箇所）に1人の3人体制で始めましたが、トイレ掃除を1人で行うとトラブル（詰まりや利用者さんが出てこない時）への対応が難しく、2人で行うようにしました。その結果、作業がスムーズに行うことができるようになりました。

現在、6名の利用者が交代で清掃業務に従事しています。

#### その他の掃除

6月からゆうちょ銀行のATM掃除・8月から浮島グループホームの掃除を請け、1カ月の予定が固定したので飛込みのアパート掃除依頼は断っています。ATMの掃除は、日程が組めなくなり途中からひじき班に手伝ってもらうことになりました。

どの作業に於いても、ひじき班と連携して取り組み利用者さんの作業能力向上に繋がったと思います。(上地昌代)

#### ひじき[よろず]班事業計画は

- 1) 利用者の工賃アップを目指します。【個人の技術・能力アップ】
- 2) 日々の活動を通して、社会に役立っていることを自覚させながら、明るく・楽しくお互いに協調して活動していく。

1) この目標達成するために、今年度も昨年度同様に様々な作業に取り組んできました。草刈り作業の技術力は、全員が機械操作できるようになり、状況に合わせて草刈りができてきました。しかし、自分だけで状況を判断して、草刈りができるようには、まだまだ経験を積まないとできない。今年度は、新宮市からの委託を受けて、どんぐりの家と第二なぎの木園と合同で、新宮港の草刈り作業をすることができた。この新宮港での草刈り作業は、来年度も引き続き請け負うことが決まっています。また、家屋の片づけ作業などでも、分別しながら作業ができるようになってきた。ミカン畑での取り組みは、昨年以上の収穫を目指して取り組んだが、褐色腐敗病を多く発生させてしまい収穫量は半減しました。前年同様に商品とならないみかんは、ミカンジュース【293本】にして、販売しました。田んぼづくりの作業では、耕運機を使えるように指導したが、なかなか使いこなせる利用者を育てられなかった。収穫量は、昨年度と同じぐらい収穫できた。【約1600kg】稲刈りが終了してから、田んぼの土づくりや畔の手入れなどするように計画したが、計画通りにはできなかった。【他の仕事が入ったりして、定期的に田んぼに通うことができなかった。】

2) 日々の活動を通して、社会に役立っていることを自覚させながら、明るく・楽しくお互いに協調して活動していく。この目標については、少人数【3名】だったときは、コミュニケーションも取れていたが、夏場頃から人数が増え少し不安定になったりする時期もあった。お互いに理解することによって、利用者同士協力して作業することが多くなった。(岡本正)

#### 職員研修

内 容	月 日	参 加 者
自閉症スペクトラムについて	4月10日	内門なつほ
強度行動障害者への支援方法	6月4日	内門、下川、的場
サビ管養成講座	6月28日29日	中西・久保
県福祉協会主催職員研修	6月30日7月1日	鈴木・上地・的場
人権講演会（上野千鶴子氏）	7月9日	中西他5名
清掃業務技術研修	9月24日	上地・田邊
農福連携研修会	10月6日	岡本・田邊
強度行動障害者への支援方法	11月12日・23日	下川・内門
サビ管養成講座	11月18日・29日・30日	中西

引きこもり支援	12月14日	下川
行動障害をどう受け止めるか	12月17日	中野・内門
セルフ協会主催職員研修	2月16日・17日	瀬田・久保・田邊
新東の職員研修	2月18日	岡本他5名
県主催の虐待研修	2月20日	立嶋美佳
施設内虐待研修	3月15日	全職員

## 2) わかばグループホーム

- 1 行事 入居者11名のうち10名が、わかば園作業所と第二作業所の利用者です。1名が一般就労しています。ホームとして定期的に保護者を交えての誕生会（食事会）を開催しています。また、忘年会、花見を開催して生活にも季節感を取り入れるよう努めています。
- 2 入居者数 定員10名（平成29年3月31日）
- 3 費用（自己負担額）
 

浮島ホーム	家賃	20,000円～30,000円
	生活費	31,000円
神倉ホーム	家賃	10,000円
	生活費	28,000円
- 4 職員 世話人3名、支援員5名、サービス管理責任者1名（兼務）  
管理者1名（兼務）
- 5 連携 入居者8人が地域福祉権利擁護事業と契約しています。その担当者と利用者の金銭管理等について意見交換し、適切な地域生活ができるよう連携した支援に努めています。また、施設でグループホーム連絡会を不定期ながらも開きました。
- 6 開所日 年中休み無 365日食事も提供

### 職員からの感想

平成17年にかみくらホームに出会い、12年間世話人をさせていただき、ありがとうございました

この一年間も、スタッフが定まらない中、いろいろとありましたが、大きな問題はなく過ごしてこれたのも保護者、地域の方のお蔭だと感謝しています。ありがとうございました（久保千早）

## 3) わかば園第二作業所について

- 1 利用人数（平成29年3月31日現在）14名  
〈就労継続支援B型〉

	障害程度区分3	1名
	障害程度区分2	7名
	障害程度区分1	2名
	無	4名
2	平均利用率	13.6人（定員20名）
3	平均年齢	33歳
4	職員（平成29年3月31日現在）	4名
	〈就労継続支援B型〉	
	作業指導員	2名
	生活支援員	1名
	サービス管理責任者	1名
	管理者	1名（兼務）
	（有資格者 介護福祉士3名）	
5	開所日	268日
6	平均工賃（1ヶ月当たり）	
	平成26年	22,377円
	平成27年	26,946円
	平成28年	27,806円
7	年間売上額	
	平成26年	4,560,238円
	平成27年	13,884,225円
	平成28年	14,134,826円
8	防災訓練（避難・通報・消火等）	年2回実施（8月・3月）
9	虐待防止研修	平成29年3月15日実施

#### 職員からの28年度の感想

- ・ 利用者が作業しやすいような取り組み
- ・ 職員4人体制による木工全般・縫製全般の引き継ぎできる体制作り、分業作業の共有
- ・ お燈祭り時期の残業時間の減少
- ・ 前年度の実績を踏まえた卒塔婆、荒縄、布巾の在庫作り
- ・ 新規の販売先の開拓

今年度は職員が増えた事と初年度経験から作業の効率的に行う事ができました。利用者も新しい作業場に慣れ、各作業だけでなく準備や片付け、掃除な

どを各自が必要に合わせて行う事ができて来ています。作業についても、前年度と比べて卒塔婆在庫を貯める事ができ年末に慌てる事ありませんでしたし、松明作りでも残業時間を減らす事ができ、荒縄作りも目標数を達成する事が出来ました。縫製部についても県からの布巾注文や、新しく井上企画からの下請け布巾作りも始まった事で目標を大きく超える事ができました。

作業は全体的にスムーズに行う事ができましたが、目標の一つであった作業の引継ぎを行える職員を作り、各作業について、引き継ぎを行える体制を作る事については、木工班・縫製班共にあまり進ませる事ができませんでしたので、次年度も引き続き行って行きます。(中西浩永)